



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第61号 平成28年3月発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

今年度の教育相談・訪問支援等の実績報告

相談支援の内容・支援先	幼稚園保育園 (幼児)	小学校 (小学生)	中学校 (中学生)	高等学校 (高校生)	その他 (病院・過年生等)
教育相談・学校見学 (メール・電話も含む)	66人(45)	17人 (18)	40人 (198)	0人(2)	3人(2)
訪問支援	71人(83)	95人 (126)	10人(11)	0人(0)	0人(0)
研修支援	0回(0)	5回(12)	0回(0)	0回(0)	5回(3)
個別授業体験	1人(4)	14人(5)	4人(52)	0人(0)	0人(0)

人数と回数は、のべ数です。()は26年度分

*オープンスクール、夏休み授業体験会の参加人数は含まれていません。



▶ 傾向 その1

桃花台学園が開校し、教育相談のシステムが変更になったため、中学生の教育相談や授業体験は、非常に少なくなりました。桃花台学園とかえで支援のそれぞれの状況に合わせた相談等を行うことができました。

▶ 傾向 その2

幼稚園・保育所(人数は減少だが、回数や訪問園数は増加)、特別支援学級への訪問支援が増加しています。小学校の「通常の学級」への訪問は、減少しています。中学校の特別支援学級への訪問相談の件数は少し増加しており、ほとんどが小学校時代からの継続支援です。すでに他機関と連携しているが、改善が図れていない困難ケースの相談が増加しています。

▶ 傾向 その3

幼児の保護者からの教育相談や小学6年生の個別の授業体験が増加しました。進路選択のために、実際の体験を含め、より多くの情報を収集したいというニーズが高まっています。



▶ 傾向 その4

昨年度と同様に校内委員会で協議されてから、訪問支援を依頼するケースが増えてきました。しかし、管理職やコーディネーターが変わると手続き等わからなくなってしまうという学校もまだ多いです。

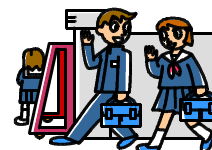
***校内委員会の資料やセンター的機能の活用の資料、支援の必要な児童生徒の関係書類や専門家からの助言の記録等を次の担当者に引き継いで下さい。**

▶ 傾向 その5

小学校での専門家(P T、O T、S T)の活用が増加しています。知的障害や発達障害の児童生徒についても身体面や言語面へのアプローチが、結果的に行動面や学習面、情緒面の改善につながることもあります。

▶ 傾向 その6

今年度は高校生や高等学校からの相談はありませんでした。本地区に富士見支援学校があり、「高等学校に在籍する発達障害者等サポート事業」が実施されているためであると思われます。



▶ 傾向 その7

読み書きの困難に関する相談機関は増えていますが、直接子どもにかかわってもらえる療育機関等は不足しています。保護者や教員へのアドバイスだけでは改善が図れない場合も多いので、通級指導教室の増室や発達障害を熟知したスクールカウンセラーの配置等が小中学校には必要であると思われます。

来年度のオープンスクール・夏休み授業体験会

第1回 オープンスクール

平成28年6月14日(火) AM

*小学部・中学部への進学を検討している方 対象

<主な内容>

- ・学校説明、教育相談について
- ・授業見学
- ・学校施設の見学



第2回 オープンスクール

平成28年7月5日(火) AM

①高等部への進学を検討している方
②医療、保健、福祉、就労等
関係機関の方 対象

<主な内容>

- ・学校説明 (①②別に行います)
- ・入試についての説明
- ・授業見学
- ・学校施設の見学

* 桃花台学園への進学希望の生徒も、本校の見学をして進路決定の参考にしてください。

夏休み授業体験会

平成28年8月20日(土) AM

<内容>

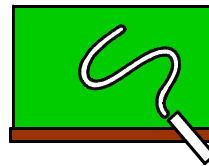
各学部の授業体験

<対象児生>

本校入学を検討している

年長児、小6児、中3生

- * 当日、本校の児童生徒は登校していません。
本校の教員が通常の授業を行い、体験していただきます。
- * 桃花台学園が第1希望の生徒も是非参加してください。



来年度は、
参加者に合わせて
学校概要等の説明会を
わけて行います。

H28年度かえで支援学校入学・転入学予定者の引継ぎについて

小学部 への入学・転入学予定児につきましては、各園・学校に本校教員が訪問しての引継ぎをお願いしています。
<担当：小学部主事 中嶋>

中学部・高等部 への入学予定者につきましては、事前に日時の予約をしたうえで、来校をお願いします。「個別の教育支援計画」等の引継ぎ資料を持参してください。

中学部引き継ぎ期間 3月12日～3月25日

高等部引き継ぎ期間 3月14日～3月18日

<担当：中学部主事 古屋 高等部主事 渡邊>

- * 対象の園や小学校には、すでに文書を発送しています。
- * 高等部入学許可予定者については、合格発表後に日程の調整をします。

★「フレンズ」のバックナンバーを、ぜひHPで御覧ください。
◆◆◆ この通信に関するお問い合わせ ◆◆◆



山梨県立かえで支援学校
相談・支援部
(飯嶋・いいじま)

甲府市東光寺2-25-1(〒400-0807)
TEL 055(223)6355 FAX 055(223)6356
URL <http://www.kaedey.kai.ed.jp/>
E-Mail sodan@kaedey.kai.ed.jp
(相談・支援部専用アドレス)



かえで支援学校

検索

研修会報告

○日時：2016年1月6日（水）13:30～15:30

○場所：かえで支援学校 食堂

○講師：淑徳大学発達臨床研究センター 池畑美恵子 先生

○講演テーマ：「感覚と運動の高次化から見た子どもの理解～Ⅲ層、Ⅳ層の発達支援～」



<内容>

1 感覚と運動の高次化理論

子どもの発達を、

- ① **感覚と運動のつながり**を土台（出発点）とする質的な変容のプロセスでとらえ、
- ② そのプロセスにⅠ層→Ⅱ層→Ⅲ層→Ⅳ層という区切りをつけて整理し、
- ③ それぞれの層の子どもは**どういう姿**を示し、いかなる**支援や教材**が有効であるかを検証した理論。

2 感覚と運動の高次化理論における発達水準

Ⅰ層 初期感覚の世界

初期感覚が優位/感覚的、生理的、受動的な自己

Ⅱ層 知覚の世界

目や耳の育ち/自己と外界の分化

Ⅲ層 象徴化の世界

イメージとことばの育ち/関係の相互化

Ⅳ層 概念化の世界

ことばや記号操作を通じた思考の形成/自我、自己像の育ち

3 Ⅲ層 象徴化の世界

特徴：感覚で受容した対象・内容に、視覚や聴覚を通して**意味づける世界**。

発達を捉える視点：①**象徴機能（シンボル）**の形成→見立て遊び、ごっこ遊び ②**知恵の育ち**→細部視知覚、全体視知覚、記憶の高次化 ③**自己像の発達**→模倣の活発化 ④**ことばの理解とコミュニケーションの拡大** ⑤**情緒の恒常的な安定**

支援と留意点：①**象徴遊びの広がり**を支える3つのカ→ i 見立て・脱文脈化 ii 行為をつなげる・統合化 iii 役割取得・脱中心化 ②文字や数概念の基礎となる**細かな見分け** ③からかいや自己主張には**むきにならずに**、プレイフルなかかわりでやりとりの満足。④集団は**少し高めの内容**で、適度に**新規性**をもたせる方がうまくいきやすい。

<参考文献>

宇佐川浩「障害児の発達臨床Ⅰ」

学苑社,2007

宇佐川浩「障害児の発達臨床Ⅱ」

学苑社,2007



4 Ⅳ層 概念化の世界

特徴：内言語や対話を通して**柔軟に判断、思考する世界**。

発達を捉える視点：**概念化Ⅰ水準** ①細部の視知覚、聴知覚の育ち ②全体視知覚、聴知覚の育ち→絵本のストーリー理解。4語文の理解。③文字、数概念の芽生え→単語の理解、構成。5までの数概念。

概念化Ⅱ水準 ①ことばの広がりと思形成→質問にことばで考え、ことばで答える。②文字・数概念の安定→3語文以上の文章、助詞の理解。10の合成、分解。③全体知覚の柔軟な広がり。→空間的な状況と時間的な文脈の関連づけ。空間的な配置と量的な概念の関連づけ。

支援と留意点：①数や文字学習の本質は**記号操作の力**→**発達過程**を無視した指導は汎化しにくい。②年齢とともに顕在化する**つまづきへの対応**→語用のつまづき、運動面の不器用さ。③**二次的適応障害**、劣等感拡大の予防→集団からはずれた際のフォロー。

5 Ⅲ層：象徴化～Ⅳ層：概念化の新たな整理

学齢時フォローでみると、象徴化や概念化はこれまで考えていたよりも道のりは長く、急な上り坂。

↓
象徴化、概念化が厚みを増していくために、ことばの育ちを**思考形成とつなげ**、長いスパンで捉える。

6 Ⅲ層：象徴化水準～Ⅳ層：概念化水準のことばの学習ステップ

ステップ1 生活レベル、具体レベルでのことばの広がり→ことばを知る、表現を知る。

ステップ2 ことばの意味のグループ化、ことばの構造の意識化、動きとことばの一致。

ステップ3 文の構造の意識化、文の意味内容の理解。ことばとイメージをつなげる。助詞を使う、考える。短文を読み、正誤を考える。

7 Ⅲ層、Ⅳ層の指導のポイント

①**基礎を跳び越さず丁寧に**。タテに伸ばし、ヨコに広げ、ナナメに振り返る。

②**視覚的な手がかりや教材の構造化**を当たり前しない。

③**指示語や先回り支援**をせず、**子供が考える、表現する機会**を意図的に作り出していく工夫が大切。

<おわりに>

今回の池畑先生の講義は、夏に行った学習会の続きでした。宇佐川先生の「感覚と運動の高次化理論」のⅢ層、Ⅳ層の内容でした。「数が分かる」「文字が読める」という実態把握でも、「3こちょうだいと言って3こまとめて渡せるか」「単語の構成ができるか」など、本当に分かるとはどういうことを学びました。文字や数が生活や遊びに生きるために、意識して学習に取り組んでいくことが大切です。発達段階を踏まえて、必要な指導・支援を心掛けていきたいと思ひます。

心理士等専門家の活用の実施状況

心理士（本校配属）

<校内> 児童生徒の行動観察及び指導のポイントのアドバイス（24人）

保護者との面談（5人）

本人との面接（1人）

<校外> 児童生徒の行動観察及び指導のポイントのアドバイス

本人との面接

等（保育所1回 他の支援学校11回）

ST（他校から派遣）

<校内> 5人

<校外> 1人（小学生）

OT（他校から派遣）

6人

3人（小学生）

PT（他校から派遣）

研修会の実施

1人<2回>（小学生）

主な相談内容（今年度分）

*相談内容は同じでも実態やその行動の背景は異なるので、児童生徒の行動観察や担当への聞き取りを基に、助言をもらっています。

心理士への相談

○うれしくても楽しくても気持ちが高揚しすぎてしまい、物を投げたり、人を叩いたりしてしまう。

○グループを作って教師に反抗的な行動をとる。

○友達にしつこくかかわってしまう。

○教師に対して、常に予定を確認してくる。

○家では大きな声を出すのに学校では話さない。

○手や友達が触った物などをずっと洗っている。

○母親にだけ、乱暴な行動を取る。

○写真撮影で緊張してしまう。

○男言葉を使う。

○休みの日に必ず出かけないとパニックになる。（保護者より）

○お風呂に入りたがらない（保護者より）



STへの相談

○発音が不明瞭である。

○子音を省略してしまう。

○音の置換がある。

○音を飛ばして話してしてしまう。

○吃音がある。



PTへの相談

○軽度の知的障害があり発達障害の特性をもつ児童生徒への身体的なアプローチのポイントや事例を教えて欲しい。

○マヒはないが、歩き方が不安定である。

○前転ができない。

○まっすぐ走れない。

○身体の動きの改善のために、日常生活に取り入れられる活動を教えて欲しい。



OTへの相談

○座ったときの姿勢が傾いてしまう。猫背になってしまう。

○箸や鉛筆の持ち方がぎこちない。

○くつの履き替えや着替えを一人でできるようにさせたい。

○常同行動が止まらない。

○着席行動が身に付いていない。

○いつでも体が緊張している。

○目と手が協調していない。

○文字がマスから出てしまう。

